



2003年度

事業計画の概要

2003年4月

～天然ガスがひらく未来～
エネルギーフロンティア
東京ガス株式会社

はじめに

ガス事業制度改革を一段と推し進める改正ガス事業法案は、国会審議を経て、2004年春にも施行される予定です。エネルギー市場は、いよいよ本格的なエネルギー大競争時代に突入してまいります。こうした経営環境の変化に対応し、競争に打ち克つために、当社は、2002年10月に、2003年～2007年度の中期経営計画である「フロンティア2007」を作成し、公表いたしました。

2003年度は、「フロンティア2007」の計画初年度であり、この初年度の成果が今後5ヵ年における当社発展の基礎となるとの認識のもと、計画達成に向けて取り組んでまいります。

事業計画の概要

1. 普及計画

03年度の新設件数については、首都圏で落成の続く大規模集合住宅の影響により、02年度（注）譲受された鴻巣市営ガス分を除く）と同様に27万件台と計画しています。04年度以降は、住宅ローン税額控除制度の延長と地価の下落による新築物件の内周化影響が一段落したことや長引く景気低迷の影響から、首都圏における住宅着工件数のペースダウンが続くものと予測され、新設件数は減少するものと考えられます。お客さま件数については、5ヵ年平均で1.5%伸びる計画としています。

（千件）

	02年度見通し	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	年平均伸び率
新設件数	注) 289.8	272.3	263.3	254.1	253.7	251.2	2.8%
お客さま件数	9,230.6	9,396.6	9,550.5	9,692.4	9,831.1	9,964.5	1.5%

注)02年度新設件数 289.8千件には、鴻巣市営ガス譲受分 11.7千件を含むため、純粋な新設件数は 278.1千件
お客さま件数 = ガスメーター取付数

2. ガス販売量計画

5ヵ年平均（02年度見通しから07年度）で、4.0%の伸び率で計画し、07年度には125億m³を見込んでおります。

【全体販売量】

（単位：百万m³，46.04655MJ/m³）

	02年度見通し	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	年平均伸び率
販売量合計	10,258	10,713	11,271	11,644	12,190	12,486	4.0%

02年度は標準化後(気温等を平年ベースに補正した値)見通し。以下同様。

(1) 家庭用

新設件数の伸びを背景に家庭用調定件数は伸びていきます。

一方、一世帯あたりの家族人員数の減少、中食化の影響、機器効率の向上、住宅の高気密・高断熱化等により、床暖房システムの普及に努めながらも、今後も一件あたり販売量は減少傾向が続くことが予測されます。

【家庭用需要と一件あたり販売量】

（単位：百万m³・m³/件・年，46.04655MJ/m³）

	02年度見通し	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	年平均伸び率
家庭用販売量	3,196	3,250	3,299	3,341	3,379	3,417	1.3%
一件あたり販売量	407	404	402	401	400	399	0.4%

【床暖房普及件数累計】

（千戸）

	02年度見通し	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	年平均伸び率
件数累計	470	557	653	749	843	936	14.8%
普及率	5.0%	6.0%	7.0%	8.0%	9.0%	10.0%	-

普及率は、床暖房件数累計÷当社供給区域内年度末家庭用需要件数で算定

(2) 工業用

発電需要を中心に大口需要が拡大していきます。02年度から家庭用需要を抜いて用途別で最大量となる見通しです。

(単位：百万 m³ , 46.04655MJ/m³)

	02年度見通し	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	年平均伸び率
工業用販売量	3,469	3,657	4,041	4,247	4,569	4,720	6.4%
(内大口販売量)	3,104	3,331	3,632	3,815	4,117	4,248	6.5%

(3) 商業用他

ガス空調の普及により空調需要が拡大します。また、02年度から分社化したエネルギーサービス新社への販売開始等により大口需要を中心に増加していきます。

(単位：百万 m³ , 46.04655MJ/m³)

	02年度見通し	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	年平均伸び率
商業用販売量	2,503	2,704	2,769	2,838	2,960	3,030	3.9%
(内大口販売量)	774	838	867	883	940	958	4.4%

(4) 卸供給

他事業者への卸供給は卸供給先の需要増や新規卸供給先増により増加してまいります。

(単位：百万 m³ , 46.04655MJ/m³)

	02年度見通し	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	年平均伸び率
卸供給販売量	1,090	1,102	1,162	1,218	1,282	1,319	3.9%

(5) 発電用途

【発電用途(コージェネレーション、発電専用)販売量】(上記(2)、(3)の内数)

コージェネレーションの普及や新規発電事業者への供給等により販売量が増え、全体販売量に占める割合が伸びてまいります。

(単位：百万 m³ , 46.04655MJ/m³)

	02年度見通し	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	年平均伸び率
民生用コージェネレーション	246	256	244	261	274	287	3.1%
産業用コージェネレーション	998	1,033	1,167	1,312	1,383	1,426	7.4%
発電専用(事業用)	1,053	1,153	1,285	1,295	1,377	1,395	5.8%
発電専用(自家用)	178	155	165	155	165	155	2.7%
合計	2,475	2,597	2,861	3,023	3,199	3,263	5.7%

*特定電気事業者への販売は、発電専用(事業用)に含む

【販売量全体に占める発電用途の割合】

	02年度見通し	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度
発電用途割合(%)	24.1	24.2	25.4	26.0	26.2	26.1

3. 生産・購入量、原料使用計画

長期に安定した原料調達に努めます。また、短期取引の拡大等により調達コストの一層の低減と柔軟性を高めてまいります。

【ガス生産・購入量】

(単位：百万m³，46.04655MJ/m³)

		02年度見通し	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度
天然ガス系	LNG	9,647	9,790	10,321	10,488	11,006	11,365
	国産天然ガス	182	218	254	266	280	291
石油系	LPG	447	504	526	747	762	689
	オフガス	206	210	210	210	210	210
合計		10,482	10,722	11,311	11,711	12,258	12,555

* 生産・購入量には、他ガス事業者からの受入れは含まない。

【原燃料使用量】

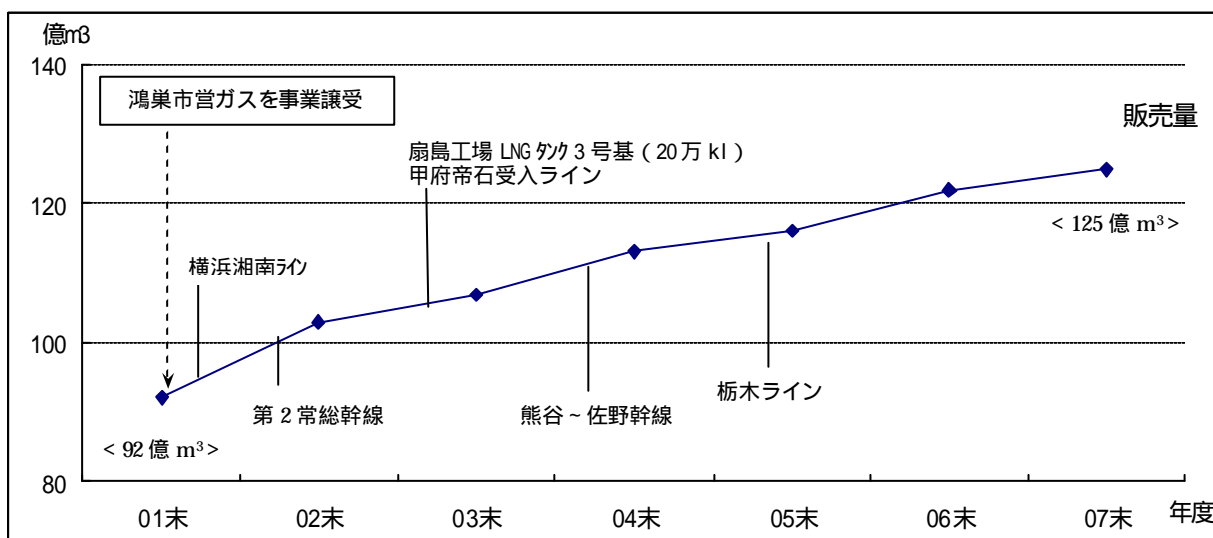
(単位：千t)

	02年度見通し	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度
LNG	7,738	7,919	8,344	8,526	8,999	9,321
LPG	390	443	471	684	710	653

4. 主要設備計画

需要見通しに的確に対応した設備増強と製造・供給インフラの整備を実施し、安定供給に努めるとともに、効率化努力を行なってまいります。具体的な取り組みとしては、2002年度に横浜・湘南ラインと第2常総幹線が完成し、2003年度には甲府支社管内で帝石ガスの受け入れ、2004年度には熊谷～佐野幹線完成による宇都宮支社管内への当社工場からのLNGガスの供給を開始し、2005年度の栃木ラインの完成により北関東地区の需要増に対応してまいります。なお、2009年度には、当社供給区域内全域の安定供給と需要増に対応するために中央幹線(江戸川区～草加市)の完成を予定しております。

【需要見通しと設備形成計画】



【主要製造設備計画】

使用開始予定年月	製造設備	設置場所
2003年10月	LNG気化器(緊急用)	甲府受入基地
2003年10月	LNG地下タンク3号基(20万kl)	扇島工場

【主要導管計画】

使用開始予定年月	路線名	区 間	内径 (mm)	圧力 (MPa)	総延長 (km)	
2004年10月	熊谷～佐野幹線	熊谷～佐野	400	7.00	39.1	
				1.77	2.9	
2006年3月	栃木ライン	佐野～真岡	400	7.00	54.0	
2009年10月	中央幹線	江戸川区～草加市	600	7.00	23.0	
2003年10月	①帝石受入ライン	第1ライン	昭和町～甲府市国母	300	0.99	2.8
		第2ライン	昭和町～甲府市大里町	300	0.99	0.7
2006年3月	②栃木ライン(中庄部分)	真岡～宇都宮	500	0.99	16.0	

*路線名左数字は、「導管網整備計画図」(5ページ)の路線番号

【年度末導管延長】

(単位: km)

02年度見通し	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度
49,411	50,079	50,670	51,281	51,834	52,392

5. 設備投資計画の概要

今回供給計画策定期間の2003年度から2007年度において、

製造設備では、1998年10月に稼働を開始した扇島工場の諸設備建設等、LNG関連設備の拡充を需要の増加に合わせて進めていくことで、安定製造体制に万全を期す

供給設備では、新設需要開発のための導管投資、主要幹線網形成(5ページ「導管網整備計画図」参照)のための投資、さらに既存導管の計画的入取替や地震防災関連設備投資等によって、安定供給体制の確立ならびに保安の確保に努める

業務設備では、お客さまサービスの充実、技術開発の推進、情報化関連投資等により営業体制の一層の強化を図る

附帯事業設備では、2002年7月に設立した(株)エネルギー・アドバンスへの業務移管により、大幅な削減を図ることを柱として、

5年間の総投資額として4,151億円(工事負担金収入圧縮後)の投資を計画しました。

【設備投資計画合表】

(単位: 億円)

		02年度見通し	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	03～07年度合計
ガス事業設備	LNG関連設備	60	37	16	11	0	7	71
	その他	19	18	29	39	51	42	179
	製造設備	79	55	45	50	51	49	250
	幹線投資	94	83	77	53	41	22	276
	その他	637	619	575	584	542	540	2,860
	供給設備	731	702	652	637	583	562	3,136
	業務設備	148	191	181	129	128	120	749
計	958	948	878	816	762	731	4,135	
附帯事業設備	11	7	3	3	2	1	16	
工事負担金圧縮後合計	969	955	881	819	764	732	4,151	

LNG関連設備	扇島工場(期総額669億円 内今5ヶ年期間38億円) 3基目LNG20万kl地下タンク(03年度完成・総額242億円、内今5ヶ年期間19億円)
幹線投資	熊谷～佐野幹線(04年度完成・総額154億円、内今5ヶ年期間29億円) 栃木ライン(05年度完成・総額169億円、内今5ヶ年期間128億円): 中庄含む 中央幹線(09年度完成・総額160億円、内今5ヶ年期間135億円)
業務設備	技術開発・情報化関連・営業拠点改修ほか

主要計数計画

(1) 普及計画

	02年度見通し	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	備考
新設件数 (千件)	289.8	272.3	263.3	254.1	253.7	251.2	5ヶ年計 1,294.6
お客さま件数(千件)	(2.1%) 9,230.6	(1.8%) 9,396.6	(1.6%) 9,550.5	(1.5%) 9,692.4	(1.4%) 9,831.1	(1.4%) 9,964.5	(対前年伸び率)
純増件数 (千件)	186.4	166.0	153.9	141.9	138.7	133.4	5ヶ年純増 733.9
普及率 (%)	89.5	90.0	90.5	91.1	91.7	92.3	

注)02年度新設件数 289.8千件には、鴻巣市営ガス譲受分 11.7千件を含むため、純粋な新設件数は 278.1千件
普及率は、当社供給区域内お客さま件数 ÷ 当社供給区域内一般世帯数で算出

(2) ガス需要見通し

(単位：百万 m³ , 46.04655MJ/m³)

		02年度見通し	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	年平均伸び率
販売量	家庭用	(407) 3,196	(404) 3,250	(402) 3,299	(401) 3,341	(400) 3,379	(399) 3,417	(0.4%) 1.3%
	業務用							
	工業用	3,469	3,657	4,041	4,247	4,569	4,720	6.4%
	商業用他	2,503	2,704	2,769	2,838	2,960	3,030	3.9%
	小計	5,972	6,361	6,810	7,085	7,529	7,750	5.4%
計	9,168	9,611	10,109	10,426	10,908	11,167	4.0%	
卸供給	1,090	1,102	1,162	1,218	1,282	1,319	3.9%	
合計	10,258	10,713	11,271	11,644	12,190	12,486	4.0%	
(内)発電用途	2,475	2,597	2,861	3,023	3,199	3,263	5.7%	
(内)発電用途を除く	7,783	8,116	8,410	8,621	8,991	9,223	3.5%	

02年度は標準化後(気温を平年ベースに補正した値)見通し

()内は、家庭用1件あたり販売量(m³/件・年)

参考

(単位：百万 m³ , 46.04655MJ/m³)

	02年度見通し	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	年平均伸び率
大口供給(業務用の内数)	3,878	4,169	4,499	4,698	5,057	5,206	6.1%

02年度は標準化後(気温等を平年ベースに補正した値)見通し

(3) 空調分野の機種別ストック量

(単位：千 kW)

	02年度見通し	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	年平均伸び率
吸収式	2,681	2,797	2,905	3,007	3,107	3,193	3.6%
GHP	708	786	857	925	992	1,049	8.2%
合計	3,389	3,583	3,762	3,932	4,099	4,242	4.6%

ストック量は、当社で管理している冷房設備能力ベース(設備容量)を COP3.5 の電気空調機に換算したものの

(4) 発電用途のストック量

(単位：千 kW)

	02年度見通し	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	年平均伸び率
民生用コージェネレーション	246	271	291	308	321	334	6.3%
産業用コージェネレーション	650	687	792	904	969	1,016	9.3%
発電専用(事業用)	1,434	2,065	2,065	2,305	2,305	2,305	10.0%
発電専用(自家用)	187	187	187	287	287	287	8.9%
合計	2,517	3,210	3,335	3,804	3,882	3,942	9.4%

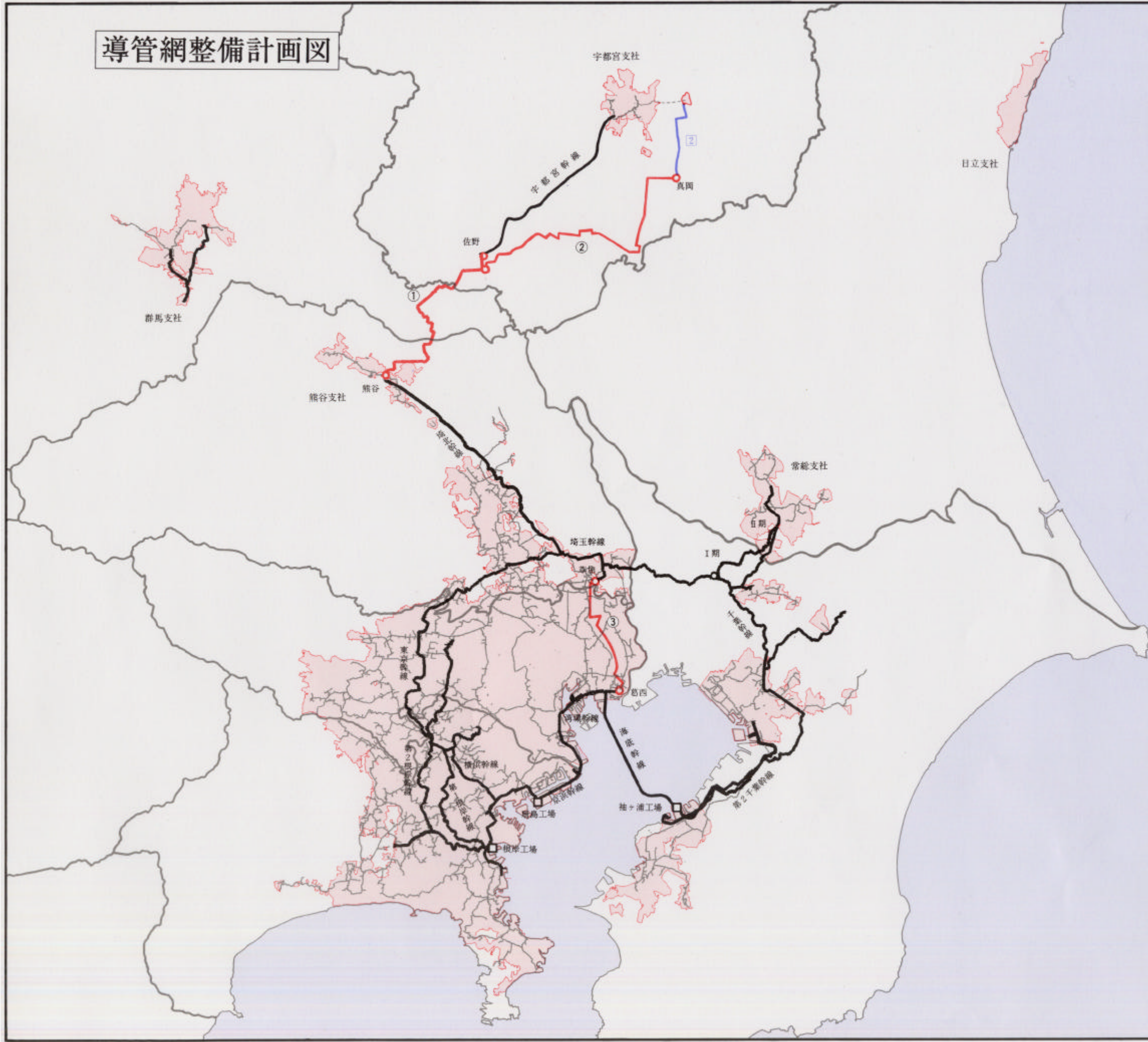
(5) 2003 年度設備投資計画

(単位 : 百万円)

項 目		投資額	構成比	備 考	
製 造 設 備	新規 LNG 関連設備	3,741	3.9%	・ 扇島工場 期工事 内 LNG20 万 kl 地下タンク建設 3 基目	
	そ の 他	1,769	1.9%	・ 既存設備改修 ・ 更新工事	
	計	5,510	5.8%		
供 給 設 備	本 支 管	需要開発関連	27,869	29.2%	・ 需要本支管ほか
		安定供給関連	13,836	14.5%	・ 76.2km 高圧輸送幹線 18.2km 内 熊谷～佐野幹線 栃木ライン(中圧含む) 中央幹線 供給圧力改善工事ほか
		導管保安関連	7,818	8.2%	・ 119.3km 老朽管計画入取替
		他工事関連他	4,201	4.4%	・ 123.5km 道路工事等の付随ガス工事
	小 計	53,724	56.2%	・ 936.7km	
	供給管・ガスメーター	15,004	15.7%		
	そ の 他	1,447	1.5%	・ 地震防災等保安対策設備ほか	
	計	70,175	73.5%		
業 務 設 備	19,136	20.0%	・ 技術開発、情報化関連、営業拠点改修ほか		
ガス事業設備計 (工事負担金圧縮後)	94,821	99.3%			
附 帯 事 業 設 備	703	0.7%	・ 地点熱設備関連ほか		
合計(工事負担金圧縮後)	95,524	100.0%	・ 工事負担金収入		

備考内の延長は施工延長

導管網整備計画図



＜高圧幹線＞		
No.	路線名	使用開始年月日
①	熊谷～佐野幹線	2004年10月
②	栃木ライン	2006年3月
③	中央幹線	2009年10月

＜中圧ライン＞		
No.	路線名	使用開始年月日
①	帝石受入ライン	2003年10月
②	栃木ライン(中圧部分)	2006年3月

- (凡例)
- ・高圧幹線 ———
 - ・中圧ライン ———
 - ・既設HPライン ———
 - ・既設主要MAライン ———

